

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

基本方針 1 市民活動に関する情報収集・提供

実施施策 1	紙媒体による情報提供の充実	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生向けの町内会活動啓発は町内会離れが進む現状を変える契機となる可能性がある。または町内会の新しい在り方を探る契機となる可能性もあり、重要である。 「とよかわボランティア・市民活動センターだより」（以下「センターだより」という。）をカラー化したことで、読む人が見やすい、読みやすいと感じるものになっており、閲読者の増加も期待でき進展したと考える。 各種講座のチラシについて、わかりやすく、カラーで画像や挿絵を入れながら作成しているのは良かったと感じる。 企業などが発行する情報誌への市民活動情報の掲載促進ができています。 「ボランティア適正診断シート」の配布部数が令和4年度と比較して約3倍に増加しているため、ボランティアへの意識啓発がより活発化していて、良かったと思う。 毎年開催されている「えがおフェス」では、協働事業の報告などきめ細かい情報提供が出来ていると思う。 若い世代、子育て層など幅広い対象に届きやすい情報紙の活用が順調に行われていると思う。シニア世代だけでなく、紙情報、紙資料から情報収集する人はまだ多いと思うので、こまめに活用していくことが良いと思う。 昨年にも増して、新聞の活用が伸びている。より多くの市民の目に留まる紙媒体の活用が出来ていると感じる。 町内会に入会しない家庭が増えてきているので、小学生に学校の授業の中で町内会の取り組みや災害時の町内会の働き等について知ってもらうことは良いことだと思う。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> センターだよりを知らない市民がまだ多くいるような数値が出ている。今後アンケートをする際に、「広報とよかわにセンターだよりが挟み込まれていることを知っていますか？」に設問を変えると数字が違うかと思う。挟み込んでいるので、それがセンターだよりなのかどうかは知らないのかもしれない。企業情報誌を出しているかの調査も再度すると良いと思う。 ボランティア・市民活動センターだよりの閲読率が前回よりは増えているが、2016年当初の数字に達成できず、目標達成に何が必要か考える必要がある。 新聞を購読していない世帯が多いと聞く。企業紙などを活用して情報提供を充実させてほしい。 令和4年度と比較して、令和5年度は情報件数が減少しているため、より多くの情報を掲載し、かつ情報の中身を充実させることが更なる情報発信の強化につながると考える。 			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

- ネットなどの情報提供が増えてきてはいるが、まだまだ紙媒体での情報提供は必要だと思うので、是非とも継続してほしい。
- 町内会活動啓発冊子を用いた学びについて、令和5年度は小学校20校が授業を行ったが、令和4年度の25校から5校の減少となった。教員の負担軽減等から、授業に組み込むことを強制できないものの、授業に組み込めなかった理由を確認し、次年度以降、学校ごと個別の働きかけをかけるなど工夫や改善を図ることで、授業に組み込める小学校が増加すると良いと考える。
- 広く浅く目に留まる情報をきっかけに、次の情報獲得へと動きが起こるような作戦を工夫できるとよいと思う。

実施施策2	インターネットなどの効果的な活用	委員会評価	4
-------	------------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- ・愛知大学の学生による電子回覧板アプリのダウンロード及び登録方法のマニュアル動画作成は、地域貢献事業として大いに評価したい。住民の皆さんの反応、評価も知りたいところである。
- ・広報リポーターも毎回丁寧に情報を挙げているので、とても良いと感じる。
- ・ボランティア・市民活動センターホームページなどの内容が充実し、情報掲載件数も安定して増えた。
- ・インターネットによる各種講座の申し込みは受講者側にとって手軽に参加できる機会につながっている。主催者側にとっても時間と手間の省力化につながって効果も大きいと思う。
- ・「あいち電子申請届出システム」の活用件数を増やして、若者にボランティア参加を促進していくべきである。(事業No.8)
- ・情報収集・発信ボランティア育成として、愛知大学の学生との調査・研究において、電子回覧板アプリのダウンロード及び登録方法のマニュアル動画を作成したことで、いつでもだれでも気軽に市民協働に参加できるベースが出来たと思う。今後も新たな調査・研究等を進めていただけることを期待している。
- ・Twitter や Facebook など SNS を活用して若者世代に向けて情報発信が出来ていると感じる。今後も増々SNS の情報発信に期待する。

《残された課題》

- ・電子回覧板の良さの周知を図りながら、様々な活動への啓発ができると良いと思う。
- ・ボランティアの情報発信はできているが、どれだけ多くの市民の目に止まり、活用して頂けるか、今後の取り組みに期待します。
- ・「インターネットに関心はあるが、使い方がわからない」というような市民へのサポートも充実させてほしい。
- ・若者に対して情報発信をする際に、Facebook や Twitter を利用していると書かれているが、新たに Instagram を導入しても良いと考える。現代の若者は、情報を収集する手段として Instagram を利用する人が非常に多い。情報発信を強化するために Instagram を導入するのはどうだろうか。(事業No.7)
- ・市ホームページへの掲載が去年に比べて少なくなっている。講座へ申込などインターネットを利用することで、時間を気にせずに申し込みができ、参加機会が得られると思う。
- ・「Facebook」や「X」によりプッシュ型の情報発信等を継続することは重要と考えるが、今後は、発信した情報等に対し、相手側から簡単に応募等できるよう、LINE を活用した運用の検討も必要と考える。
- ・広報リポーター制度は、情報拡散に効果が期待できると思う。SNS 講座(例：インスタ講座 動画編集講座)などとも連携して、リポーターの力を強化していきたい。リポーターにとっても魅力ある活動になるとよい。

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

- Twitter や Facebook のフォロワー数が実績に掲載されていない。昨年度から伸び悩んでいるとすれば、投稿内容をはじめ、投稿のタイミング、デザイン、QR コードを活用した SNS 自体の周知方法など総合的に検証することが必要ではないか。

基本方針2 人材育成と協働意識の醸成

実施施策1	担い手の育成と活用	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> 手話奉仕員の育成は、市民活動の多様性が求められる時代において意義のある活動である。ぜひPDCAサイクルで事業を検証しつつ、手話奉仕員の育成と活用の充実を図ってほしい。 若者ボランティアの活動の推進に向けて丁寧に案内をして振り返りを行っているのが良いと思う。 若年層ボランティア体験講座は事業数も増え、若者のボランティア活動のきっかけ作りになったことは大きい。 コミュニティリーダー養成講座において、参加者に対して事業の素晴らしさを伝えることができ、かつ関心度も高くなっている点。今後も継続していくべきである。(事業No.13) ボランティアガイドのボランティア講座が好評で、ボランティアの士気が高まっていることと思う。今後も豊川の観光などをいろいろな方に知ってもらう良い機会だと思う。活動の活性化による新たな参加者の加入に期待する。 若者ボランティア講座をはじめ各種講座の受講者が増加し、人材育成が継続的に行われており、良い効果がみられる。 若者、特に高校生については高校側でも課外活動としてボランティア参加を勧めているという話を聞いたことがあるので、ボランティア体験の機会を今後も増やしていけるとよいと思う。 令和4年度に立ち上げた、まちづくりコーディネーター人材バンクが実際に活用され、連区や町内会活動の活性化が図られたと感じる。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者ボランティア体験講座「ボラなび」で参加してもらった若者を継続して活動につながる手法を出した方が良いと感じる。6年度は防災がテーマであることから期待はできるが、その内容も工夫が要ると感じる。以前はオープンカレッジが事業に入っていたが、このところ目にしないので、協働から外してしまったのか。 若年層のボランティア体験者数について、受講者数だけでなく定員を掲載することで受講生の過不足が分かりやすくなるのではないか。 健康づくり推進員養成講座において、参加者数が減少している。市民に対して興味を抱いて貰えるようにするため、講座内容を分かりやすく説明することや写真を多く用いて講座内容をイメージしやすいチラシに改善することが必要だと考える。また、推進員養成後の具体的な活動実績や推進員となることでの「やりがい」等を周知するほか、電子媒体を活用するなどPRの工夫を検討してほしい。 			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

- 若者を対象としたボランティア体験講座の参加者が体験事業所数は増加しているが、昨年より減少している。体験型なので、長い時間がかかるため参加者が限定されてしまうのかもしれないと思った。参加しやすいような工夫が必要だと思う。
- リーダー養成、コーディネーター養成など、ボランティアをけん引する立場の人が学びたくなる魅力的な講座を設けていきたい。
- 各種養成講座は実施されているが、修了者に対してその後のフォローが行われているのか。「受講して終わり」にならないように、養成講座企画の段階から、修了者の活動場を準備しておくことを望む。

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	協働意識の醸成	委員会評価	4
-------	---------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- ・意識の啓発を続けることこそが実践を生み出す契機となるので今後も期待したい。
- ・冊子の配布部数や講座研修会等への参加人数が増えている。多くの市民が、それぞれの立場で協働について学ぶ機会となっている。
- ・「協働のまちづくり」出前講座の受講者が大幅に増加している。
- ・各種の協働研修で、協働の意識は高まっている。市民活動・協働に関する研修では、講師を変えることで様々な考え方や視点を学ぶことができる。今後も講師を毎回変えることで受講者に対して様々な考え方を提供できると考える。
- ・企業向けボランティア出前講座の開催では、市内事業所の社員を対象に実施しており、企業の社会貢献向上に寄与していると思う。多くの企業の方に参加してもらいたい。
- ・「協働意識の醸成」を図ることは、今後、豊川市が各種事業の展開をするうえで最も重要な施策と考える。
- ・一般市民向け、市職員向け、企業向けとそれぞれの立場に応じた細やかな出前講座の取り組みが参加数の増加に現れていて、効果が出ていると感じた。
- ・市民協働国際課以外の市職員に対しても、研修を継続することで協働意識の醸成が図られていると感じる。

《残された課題》

- ・協働推進員の設置について、本当に協働を推進しようと考えて事業しているのか。再度検証しなおして、自覚を持ち業務にあたってもらいたい。
- ・市民活動に関心のある市民の割合の調査がなされていないが、コロナ禍を経て現状はどうか。
- ・学ぶ機会がその後の「市民協働」に対する意識の変化にどうつながっているかを知りたい。
- ・今後も講座や活動への参加数・参加率が低下せず、維持や増加を目指して対策を考えていくのが良い。
- ・ボランティア活動は、個人ではなかなか行動しにくいと思っている人が多いと思うが、はじめの一步の発想でいろいろな行動ができると思う。是非ともいろいろな場面で市民・行政・企業と一つになって協働のまちづくりを実施してほしい。
- ・講座を受講するだけでなく、受講後の市民、職員、企業及び各種団体の者が各分野で連携し、それぞれ意見を出し合う場を設けるなど、市民協働事業を提案する機会を設けたほうが、今後、より成果が出るものと期待する。
- ・応援事業所の拡充に向けて、企業・事業所の理解が促進されるような出前講座をしていきたい。
- ・職員研修の場において、各課が取り組んだ協働事業について検証できると当該事業内容の改善と新たな協働事業の企画・実行に繋がるのではないかと感じる。

基本方針3 市民活動団体の支援

実施施策1	活動拠点の充実	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区集会施設についても健全に補助されていると思う。 ・ 市内各所の整備や利用しやすい環境づくりが計画的に進められている。 ・ ボランティア・応援事業所制度において、登録事業所数が3事業所増加している。利用実績も延べ5件と企業にとっても社会貢献事業として啓発されていると思う。今後も登録事業所の増加を目指して継続的に周知をしていくべきである。 ・ 市制80周年記念事業にかかる会館施設等使用料の10割減免は、ボランティア団体等にとっては財政的にも有効であったと思う。 ・ ボランティア・応援事業所制度について、「登録事業所一覧」をホームページに掲載することなどは、昨今の企業の社会貢献活動の動きに合致しており、新たな試みとしては今後の展開が期待できる事業と考える。 ・ どの事業も順調に進捗しているため、問題はないと考える。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動拠点形成では拠点の分散化と環境整備は、高齢化による住民の活動エリアの狭域化とともに重要な課題となる。その点からすると地区市民館の整備は今後重要となる。今後も地域事情や施設の状態を踏まえて適宜充実を図ってほしい。 ・ 町内会で活動したいことがあっても、人的にも資金的にも余裕がないので、サポートを手軽に受けられる関係を築いていけるとよい。 ・ 地区集会施設の補助で空調設備が故障した場合、すぐに新しくしたくても、補助金が利用しにくい。後からでも補助できないか。 ・ 5年度は、市制80周年事業として会場料減免が実施されたが、今後もボランティア活動や市民活動の充実のため、引き続きの施策をお願いしたい。 ・ 登録事業所数が増加しているものの、利用実績が少ないように感じるため、市民活動団体のニーズと企業とのシーズを合致させるよう行政が積極的にマッチングを促すようなシステムが構築できればと考える。 ・ 地区市民館や集会施設の設備は、自主的な活動拠点としてとても重要だと思う。空調や会議室の備品、通信環境の整備など、活動しやすい施設を目指して補助してほしいと思う。 ・ より多くの市民活動団体にボランティア・応援制度を利用していただくように、新規登録事業所の増加（利用しやすい場所や業種も要考慮）と市民活動団体へ積極的に勧奨することを望む。 			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	財政的支援などの充実	委員会評価	4
-------	------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- 地域コミュニティのICT活用充実は、高齢化が進む中で避けて通れない課題である。システムの整備とともに、住民生活の充実につながる支援に活用されることが今後も重要である。
- コミュニティICT活用促進について、適正に行えたのは、成果があったと感じる。
- 地域コミュニティICT活用促進事業補助金で、町内会電子回覧板の導入・活用できた。
- 声の広報や手話動画など視覚聴覚障害者に対する支援が充実した。点字広報は市民協働の充実を図る上でも大変有意義な取り組みだと思われる。
- 様々な部署で市民協働への財政的な支援がされていて、幅広い市民活動を行うための後押しとなっている。
- 市からの財政支援だけでなく、寄附金制度を設けることで意識啓発がより活性化すると考える。
- 市民協働推進事業への補助は、コロナ前のような実績が上がってきた。市民が集う事業として充実してきていると思う。
- 結ネット応援事業所への寄付、協賛事業所が40件293万円となって広まってきている。
- 地域コミュニティICT活用促進事業補助金は、電子回覧板を活用し運営の省力化や充実化、町内会活動の活性化などを図ることができたと考える。また、先進的な事業として、全国から視察を受け入れ対応したことに意義があると思う。
- 市民協働推進事業補助金選考では、既存の祭りや行事だけでなく、新しい形の住民参加の事業がいくつも採択され、地域の活性化につながっていると思う。市民協働推進事業補助金で、新たに地域コミュニティの場ができた。
- 市民活動に対し、行政側からの財政支援に留まるのではなく、とよかわ応援寄附金や「結ネット」応援事業所など市民や企業から事業に対する寄付金や協賛を得ることが出来ていると感じる。

《残された課題》

- 協働補助金については、ハードルが高すぎるという意見を以前から聞いている。団体への支援なら内容を検討した方が良い。町内会協働補助金なら今のままで良いが、老人クラブについて、やみくもに支援をするのではなく、今のニーズの洗い出しなどともに行い適正な財政支援を求めたい。そのことからクラブの再構築につながると思う。
- 老人クラブの数・加入者減に対し、問題点を検討し活動が継続できるよう、外部からも考える必要がある。財政支援している金額が適正か。
- 町内会電子回覧板の利用が徐々に増えているが、町内会未加入者の対応は。
- 地域の清掃活動は特に支援を受けていなくとも学校が積極的に関わっている。例えば豊川高校は年に4回ほど地域清掃を全校挙げて実施している。町内会だけに頼るのではなく学校に支援を求めたらどうか。
- 老人クラブに対する支援に積極的にかかわる。

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

- 道路河川管理課の各実績についての改善点が2年連続「制度の周知や知識の育成が必要である」とされている。具体的にどんな改善ができるかを検討する必要があると感じた。
- 令和4年度と5年度の進捗度評価が変化していない（上昇していない）事業が同じであり、積極的に改善を進めるべきである。介護高齢課が担当する事業では、高齢化という課題を解決する必要があるが、将来は少子高齢化がさらに深刻化すると予測されているため、できるだけ広い世代の人を集めてクラブ加入数を増やすのが良いと考える。
- 市民活動団体や町内会の専門性が生かせる事業について、委託などの手法の周知、知識の育成を重点に行えば、町内会だけで解決しなくてもよくなると思うので、是非広めてほしい。
- 町内会応援事業所制度の周知、啓発の事業は、登録事業所数も1件増加しただけである。利用実績も昨年より減少しているため、今後とも事業所の理解を得られるよう周知していただきたい。
- 地域コミュニティ ICT 活用促進事業補助金の財源が寄附金であり、継続性の面で不安が残るため、予算当局には、将来にわたり町内会が財政的な負担が無いよう訴えていただきたい。電子回覧板、ICT の導入・活用する費用の補助はとても重要。運用が軌道に乗るためにも補助を強化していきたい。
- 昨年度、豊川市が6月に豪雨災害に遭ったこともあり、被災地支援としての寄附金が多く集まったが、今後は協働や市民活動への支援を目的とした寄附や協賛を増やすために、より住民や企業に関心を持ってもらえる事業の企画・立案が必要だと感じる。

基本方針3 市民活動団体の支援

実施施策3	人的支援の充実	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会アドバイザー派遣事業で若者の意見と参加、協働が町内会においても進んだと思われる。 ・スキルアップ講座、アドバイザーの派遣事業については、成果が出ていると感じる。 ・町内会アドバイザー派遣事業で若者が参加する町内会活動に大学生等の参加協力があった、電子回覧板の取り扱いに高校生がかかわるなど、今後に希望が見える。 ・様々な講座があり、受講生の数も安定している様子。参加を促す呼びかけや周知ができていていると感じた。 ・スキルアップ講座において、SNS を利用した講座を設けている。現代において SNS は必要不可欠なツールであるため、今後も SNS を用いた講座を開催すると良い。(事業No.36) ・アドバイザー派遣制度の調査研修では、多くの町内会の運営見直し等に功績を残したと思う。これからの若い世代の参加機会を増やすことで町内会の運営や、災害対策も進められると思う。 ・今、ボランティアなどの活動にとっても関心が多い事項だと思うので、参加者も増えてきていると思う。各課で積極的な実績をあげられていることは喜ばしいことだと思う。 ・町内会アドバイザー派遣事業は、町内会活動における課題等の解決に向け、その解決方法を地元で実践できたことにより、他町内会活動へのアドバイスなどにも流用でき、その成果は大きく、人的支援の面に限らず進展したと考える。 ・アドバイザー派遣制度では、協議の実施実績をみると、丁寧にアドバイザーがかかわって実施されたことがうかがえる。地元住民だけだとこれまでのしがらみに囚われがちなので、外部の専門家からのアドバイスはとても役立つと思いました。 ・町内会アドバイザー派遣事業では、「若い世代が参加する町内活動」を目指しており、実際に企画・実施に若者ボランティア等の参加・協力を得ることができ、昨年度から進展したと思う。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生や大学のゼミ生などに町内会の課題解決に関わる機会を設けることで、地域により関心を持ってもらえると考ええる。 ・若者リーダー養成なども積極的に行っていき、高齢化している活動者の活性化を図っていくのも豊川市としての課題と考える。 ・各種講座に参加した受講者が、その経験を生かしてボランティア活動に取り組めるか、生かせるか。 ・事業が重複しているものがあり、同じ施策を実施していると思われる。同じ事業ではなく、異なる事業を展開することで人的支援が更に充実するのではないだろうか。 			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

- SDGsなどの取組みも協働事業として行える事業があると思うので、身近なテーマから取り組んでいくのはどうだろうか。
- まずは、いろいろな人に市民活動を知ってもらうことが大切だと思うので、アドバイザーやスキルアップなどの情報提供が不可欠だと思う。
- ここでいう「人的支援の充実」を図るためには、行政職員の増員などの充実を図る必要があると考える。具体的には、令和5年度実績において、推進計画中の45事業のうち33事業が市民協働国際課の所管事業となっており、人的支援も限られていることから、今後、更に新たな事業を展開することで市民協働を進展させるには、「ひとものかね」の観点で様々な工夫が必要と考える。
- リーダー養成、コーディネーター養成など、ボランティアをけん引する立場の人が学びたくなる魅力的な講座を設けていきたい。
- 課題解決に向けたイベントを実施することはできましたが、今後は課題解決に向けてどの程度進展しているのか、該当町内会とともに適宜検証を行っていただきたい。

基本方針4 市民協働推進の仕組みづくり

実施施策1	推進・連携体制の整備	委員会評価	4
委員会の意見			
<p>《進展したこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の参加協働が進むことで、多様な市民のニーズを掘り起こし、豊川独自の行政運営やサービスが期待される。そうした展望を抱かせる数々の競技会運営が行われている点は注目したい。 審議会への登用については的確に行われていると思う。男女比をバランスよく登用していくと条例的にも良いと感じる。 市との協働事業数が目標達成でき、増加している。市民活動団体・町内会応援事業所も確実に増えている。 「防災ってお互いさま」の講座では、受講者が令和4年度から約30名増加している。南海トラフ地震が今後発生する可能性が極めて高いため、防災関連の講座を増やしても良いと考える。市民活動団体、町内会、企業のマッチングの仕組みづくりでは、事業所を増やして登録件数及び活用件数が増加しているため、評価できる。 市民活動者の審議会などへの登用の促進では、各種団体等からももちろんのこと、広く市民からの公募もあり、市民がわかりやすい事業展開をされていると思う。多くの会議や委員に市民活動者が参加していて意見を出せる環境が整っている。 まちづくりコーディネーター人材バンクの登録者数が増加したことで、市民・市・企業が一体となって協働事業を展開できることが期待できる。また、80周年記念事業全123事業のうち77事業が民間団体等の主催によるものであり、記念事業が全体として盛り上がりを見せることができたのも市民協働が浸透してきた証だと思う。 町内会応援事業所の活用件数が65件もあり、心強いサポーターとして認知度が上がっている。町内会応援事業所については、よく頑張っていると評価したい。 どの事業も順調に進んでいるため、課題はないと考える。 <p>《残された課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> 推進員について、どのくらいの成果が年度ごと出来ているのか明確にし、庁内で動きやすくする手法の検証をすると良いと思う。 町内会応援事業所に関する周知ができていない。応援事業所の支援に corres 応するため、再度町内会等に事業の内容を周知する。 環境にかかわる市民活動団体設立に向けた推進をする。 今後、市民活動者や団体の減少が会議に参加する人材不足につながらないように対策が必要。 市民活動は、継続が第一だと思うので、今後ともいろいろな団体、組織と連携を図り、市全体で取り組んでほしい。 引き続き、80周年記念事業等における市・市民・企業・活動団体等の連携意識の醸成を維持・継続できるよう期待している。 			

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

- 町内会などの活動団体が単体でできることは限られているので、応援事業所や企業などどうつなげるかをコーディネートするまちづくりコーディネーター人材バンクの役割がとても重要になると思う。まちづくりコーディネーターの今後の活用に期待する。人材バンクの育成も充実させていきたい。
- 行政の各部署がボランティアや市民活動団体との協働を模索する際、相談先として登録と団体活動支援を担っているセンタープリオやセンターウィズを積極的に活用するように促してはどうか。

とよかわ市民協働推進計画実施施策評価書

実施施策2	協働事業の評価・公表	委員会評価	4
-------	------------	-------	---

委員会の意見

《進展したこと》

- ・公表したことは大きな進展なので、市民生活にどう役立ったかを調査し、協働事業の改善に役立ててほしい。
- ・とよかわ市民協働推進計画の評価結果を市長に報告した。
- ・評価を丁寧にしていくことで、協働事業の充実につながっている。
- ・豊川市のホームページトップページがリニューアルされていて、見やすくなっている。
- ・市民協働推進委員会で評価された市が取り組む協働事業の調査結果が、適切に公表されている。
- ・各課で行われる事業が一つのリストにまとめられているので、協働の仕組みやかかわり方がわかりやすいと思った。
- ・新規協働事業として企業との協働事業が増加していると感じる。

《残された課題》

- ・推進計画も立てる時期が近づいているので、今までのことも加味しながら市民・企業・団体と協働ができるように打ち出してほしいと考えている。
- ・おおむね順調に進捗しているが、改善できることはないか。ふり返りも必要。
- ・市民からの声も聴いてみたい。
- ・次期計画の策定に向け、総括等を行いつつ、市民・活動団体・市民協働推進委員会等からの意見を計画に反映させることで、より良い計画となるよう、今後も業務を進めていきたい。
- ・取り組み状況や実施例などを、わかりやすく広く市民に伝える SNS の活用なども検討したらどうか。
- ・協働事業の評価・公表を行っている市のホームページについては、より多くの市民に閲覧していただくために、デザインや検索方法等改良が必要だと感じる。